

2022年1月16日 礼拝説教要旨

詩編講解説教93「創造と摂理」

詩編93：1～5、コロサイ1：16～20

第93編1節に「主こそ王」とあります。神さまの王としてのご支配がこの世界に確立されたことを喜び、讃える賛歌が第93編です。天地創造の前、世界は混沌（カオス）でした。「地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた」（創世記1：2）と創世記は記します。今日の詩編にも「潮はあげる、潮は声をあげる。潮は打ち寄せる響きをあげる」（3節）ここには海のイメージがありますが、この海が天地創造の前の混沌、罪の力、死の世界を表しております。でも神さまはそれ以上に「力強く、高くいます主」（4節）であり、混沌を鎮められ、そこに秩序を生み出されるお方です。その神さまのご支配が確立された。それゆえに「主こそ王。威厳を衣とし、力を衣とし、身に帯びられる。世界は固く据えられ、決して揺らぐことはない。御座はいにしえより固く据えられ、あなたはとこしえの昔からいます」（1～2節）と詩人は歌います。海、水の上は不安定ですが、神さまのご支配は大地を土台として動かない。不動のものであることがここで強調されます。混沌ではなく、秩序ある、安定した、平和な世界こそ神さまの創造の御業であり、神さまのご支配なのです。

しかし、世界はそのまま神さまのご支配を現す、御心になかった世界だったでしょうか。「極めて良かった」（創世記1：31）状態を維持できたでしょうか。残念ながらそうではありません。神さまのご支配を託された人間は神さまの信頼を裏切り、罪を犯してしまいました。それゆえ、この世界を正しく治めることができなくなってしまった。罪による間違った支配が起こります。そこにこの世界の混乱、混沌の原因があります。命を生み出すのではなく死が支配するようになりました。平和、安定した世界ではなく、不安定で無秩序な世界、天地創造前の混沌に逆戻りしてしまったのです。

それはこの世界を見れば明らかでしょう。世界はまさに混沌としています。そこには平和ではなく、争いがあります。命ではなく死が支配しています。戦争、暴力、人と人が醜い権力争いを繰り返しています。今のコロナウイルスも混沌の状態をよく表しているでしょう。一つのウイルスに世界は大混乱しています。それだけではありません。人間の身勝手な振る舞いによって、環境が破壊され、温暖化が進み、この世界は破滅に向かって突き進んでいるように見えます。今は辛うじて持ち堪えているかもしれない。しかし、わたしたちの子どもや孫、その子どもたちの生きる世界は一体どうなっているのでしょうか。100年先どころか50年先も見通せなくなっている。「世界は固く据えられ、決して揺らぐことはない」（1節）というけれども、この世界はすでに大波に浮かぶ一艘の小舟のように翻弄されています。

だからこそ、神さまはわたしたちのために救い主イエス・キリストを与えてくださいました。混沌ではなく秩序を、死ではなく命を、争いではなく平和をもたらすためにイエス・キリストはこの混沌とした世界の只中に来てくださいました。ここに世界の希望があります。主イエスは言われました。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」（マルコ1：15）キリストの到来によって、神の国、神さまのご支配が近づきました。それは罪ゆえに失われてしまった神の国、神さまのご支配の回復、復興を意味します。

福音書には、主イエスが悪霊に取り憑かれた人を癒し、嵐を鎮められる奇跡物語があります。これもまた混沌からの解放、救いを表しています。「黙れ、この人から出て行け」「黙れ、静まれ」のように悪霊を追い出し、嵐を鎮められた。神さまは混沌、罪の力、死の力が力を振るうことをお許しなりません。罪によって支配され縛られている人間、そしてこの世界を解き放ち、これを治め支配してください。それゆえ弟子たちは驚いて言います。「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」(マルコ4：41) それもそのはずです。イエス・キリストは真の神さま、この天地万物をお造りになられた神さまご自身だからです。

この世界の現実を考えると、神さまのご支配は終わってしまったかのように思うかもしれませんが。しかしそのご支配はイエス・キリストによって、その救いによってなお継続しているということをおわたしたちは信じることができます。「世界は固く据えられ、決して揺らぐことはない」のです。それを教会の言葉で摂理と言います。神さまがその創造の御業を最後まで、完成まで貫かれるということです。「主よ、あなたの定めは確かであり、あなたの神殿に尊厳はふさわしい。日の続く限り。」(5節) そのように神さまの定めは確かであり、永遠なのです。

神さまは一度始められたことを諦めたり放棄なさることはありません。イエス・キリストによって世界を完成へと導かれます。キリストが王として、神さまのご支配を今もなお、終末の完成に到るまで守り保たれるのです。『ハイデルベルク信仰問答』は、キリストの三職(預言者、祭司、王)を言いますが、王としてのキリストについて次のように告白します。「わたしたちの永遠の王として、御自分の言葉と霊とによってわたしたちを治め、獲得なさった贖いのもとに、わたしたちを守り保ってください」(問31) さらにキリストに結ばれたわたしたちもそのキリストのご支配を世に現すべく「この世においては自由な良心をもって罪や悪魔と戦い、ついには全被造物をこの方と共に永遠に支配する」(問32) ように整えられるのです。壊れてしまっているように見えるこの世界も、わたしたちの人生もこのような神さまの真実、確かさの上に成り立っていることを覚えましょう。